

やさしい解説

AIT通信

Accounting Information Technology

2007年(平成19年)10月創刊
第48号 平成23年9月号

お月見に
お団子ほおばい
満月顔



発行

MCS GROUP

有限会社エーアイティ研究所

〒969-1169

福島県本宮市本宮字小原田 200 番地 2

TEL 0243-33-5538 FAX 0243-33-4467

URL <http://www.motomiya-mcs.jp/ait/>

E-Mail info@motomiya-mcs.jp

メンテナンス ウイルス対策の重要性

皆さまはコンピュータウイルス対策は万全でしょうか? どんなに対策を行っても十分ということはありません。コンピュータウイルスは日々新しい種類が登場し、その手口も変化しています。私たちもその変化に合わせて対策をしていく必要があります。

ウイルス検知機能だけで十分?

コンピュータウイルス対策のソフトは、各メーカーから様々なものが発売されています。高額なソフトになるとインターネットからの攻撃を感知して遮断するものもありますし、安価なソフトになりますとウイルスを検知し簡易隔離するだけで駆除までは行わないなど、その機能・性能は様々です。

また、最近は迷惑メールを自動的に判断し、専用の迷惑メールフォルダに振り分けてくれる機能を持っているものもあります。迷惑メールが毎日何十通、何百通と届いてしまう方には便利な機能であると思います。

また、外部からの攻撃・侵入を防ぐ機能として、ファイアーウォールというものがあります。ウイルスが攻撃してきやすい“入り口”を防御してくれます。パソコン歴の長い方はファイアーウォールと聞くと、「あー、あのパソコンを重くするやつね。」という印象を持っているかもしれません。ファイアーウォールが出始めの頃はパソコンの性能もまだそれほどよくなかったため、パソコンの動作が激重(ゲキオモ)になったものでした。現在は、パソコンの性能向上に伴い、それほど違和感なくファイアーウォールの機能を使用することができると思います。

1本で3台分?更新料無料?

ソフトの価格そのものが無料というウイルス対策ソフトもありますが、そういった製品は頻繁に広告が表示されるなど、パソコンの使用感を悪くしてしまいます。

最近のウイルス対策ソフトは、1つのライセンスで3台までインストールが可能だったり、1ライセンスを購入すれば更新料が無料であったりと、お求め安くなっています。

ウイルス対策をされていない方はご検討ください。

インターネット クラウド利用していますか?

こここのところ「クラウド」という言葉を耳にする機会が減ってきたように感じます。これは、トレンドとしての「クラウド」が落ち着き、実用される段階にきたためではないかと思えます。皆さまもクラウドということ意識せずにいつの間にか使用しているのではないのでしょうか?

クラウドの代表格、オンライン・ストレージ!

クラウドサービスの代表格といえば、オンライン・ストレージ・サービスだと思います。これはインターネット上の仮想のストレージ(ハードディスク)を提供してくれるサービスです。インターネット上にファイルをアップロードしておくことで、パソコンやスマートフォンからアクセスすることが可能で、いつでもどこでも必要なファイルを取り出すことができます。Dropbox がその代表格です。Dropbox は、自動でファイルをアップロード・更新してくれる機能を持ち、とても簡単に便利に利用できます。有料会員にならなくても無料で十分な容量を利用できるのも魅力です。

Google Apps、Office 365 もクラウド!

Google では Google Apps というクラウドサービスを提供しています。メールやスケジュール帳などを Web 上のアプリ(Web アプリ)を操作して作成し、そのデータをインターネット上に保存したり、ドキュメント作成の Web アプリを利用して書類を作成したりすることが出来ます。Office 365 は Google Apps と同等のサービスをマイクロソフト社が提供しています。Office ソフト(ワードやエクセル)のオンライン版を利用することが出来ます。

こういった Web アプリ系クラウドサービスはライセンス契約することで、どのパソコンで使うかに囚われることなく利用することが可能です。ブラウザさえインストールされていれば利用することが可能なので、会社や自宅で同じ環境で仕事をするのが可能になります。

パソコンにインストールして利用するソフトと比べて、まだ機能的に限定される面はあるものの、今後の IT の進化の方向性を示していることは間違いありません。

編集後記 AIT 通信もおかげさまで発行から丸4年を迎えることができました。真にありがとうございます。毎月 AIT 通信を書いていて思うのが、IT の分野の進化の早さです。去年書いていた記事がもう今年古い話になってしまう、ということもよくあります。私自身、過去の AIT 通信を振り返ってみて、「この時はこんなことが注目されていたんだな」とあらためて発見することもたくさんあります。これからも AIT 通信は時代のトレンドをご紹介していきたいと思えます。(本田)